

## 博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学専攻	分野	理学療法学分野
学籍番号	12S3045	院生氏名	中村 壮大
通学キャンパス	大田原キャンパス		
論文題目	若年者と高齢者を対象とした肩関節外転角度の増加による肩峰骨頭間距離と肩甲骨の三次元動態変化の分析		
審査結果 (枠で囲む)	合格		不合格
<p>&lt;審査結果の要旨&gt;</p> <p>1. 主論文について</p> <p>1) 【目的】若年者と高齢者で、肩関節外転時に肩峰下接触動態と肩甲骨の三次元的動態の関係性を調べた。</p> <p>【方法】対象は、若年男性 21 名と高齢男性 17 名である。超音波診断装置と三次元動作分析装置を用いて肩峰骨頭間距離の変化と肩甲骨の三次元的な動きを分析した。</p> <p>【結果】高齢者では、肩関節外転が小さい角度において肩峰最突出部の下方を上腕骨大結節外側端が通過していた。肩甲骨の上方回旋が小さいが、内旋角度は大きいため、肩関節外転角度変化に伴う肩甲骨の外旋方向への動きがなかった。さらに、肩峰骨頭間距離と肩甲骨の前後傾および上方回旋に若年者、高齢者ともに相関関係を認めたが、内旋においては若年者のみ肩峰骨頭間距離との相関関係を認めた。</p> <p>【結語】加齢による肩峰骨頭間距離と肩甲骨の三次元的な動態およびそれらの関係性に対する影響が明らかになり、肩関節外転動作時の肩峰骨頭間距離の変化の計測が、肩関節の機能的・運動学的な評価法の指標として用いることが可能になった。</p> <p>2) 研究方法は、国際医療福祉大学の倫理委員会にて承認 (承認番号 13-Io-152-2) を得ており、論証、論文形式の適切に記載されていた。</p> <p>3) 本研究の新規性は、超音波診断装置を用いて、若年者と高齢者の肩峰骨頭間距離の変化を計測し、その動態が明らかになり、肩甲骨の三次元動態変化と肩峰骨頭間距離の関係は、理学療法分野の肩関節運動療法に貢献する研究として高く評価できる。</p> <p>2. 審査会は 1 回開催し、初回審査で論文の修正を求めたところ適切に修正された。</p> <p>3. 口頭試問の結果は、適切に応答した。</p> <p>4. 合否：合格とする。</p> <p>以上の結果から、審査会の審査員全員は本論文が著者に博士 (保健医療学) の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>			
論文審査担当者	主 査	若江 幸三良	
	副 査	山本 澄子	
	副 査	金子 秀雄	